

防災科研の情報プロダクトを統合的に配信するための取り組み

総合防災情報センター 佐野浩彬

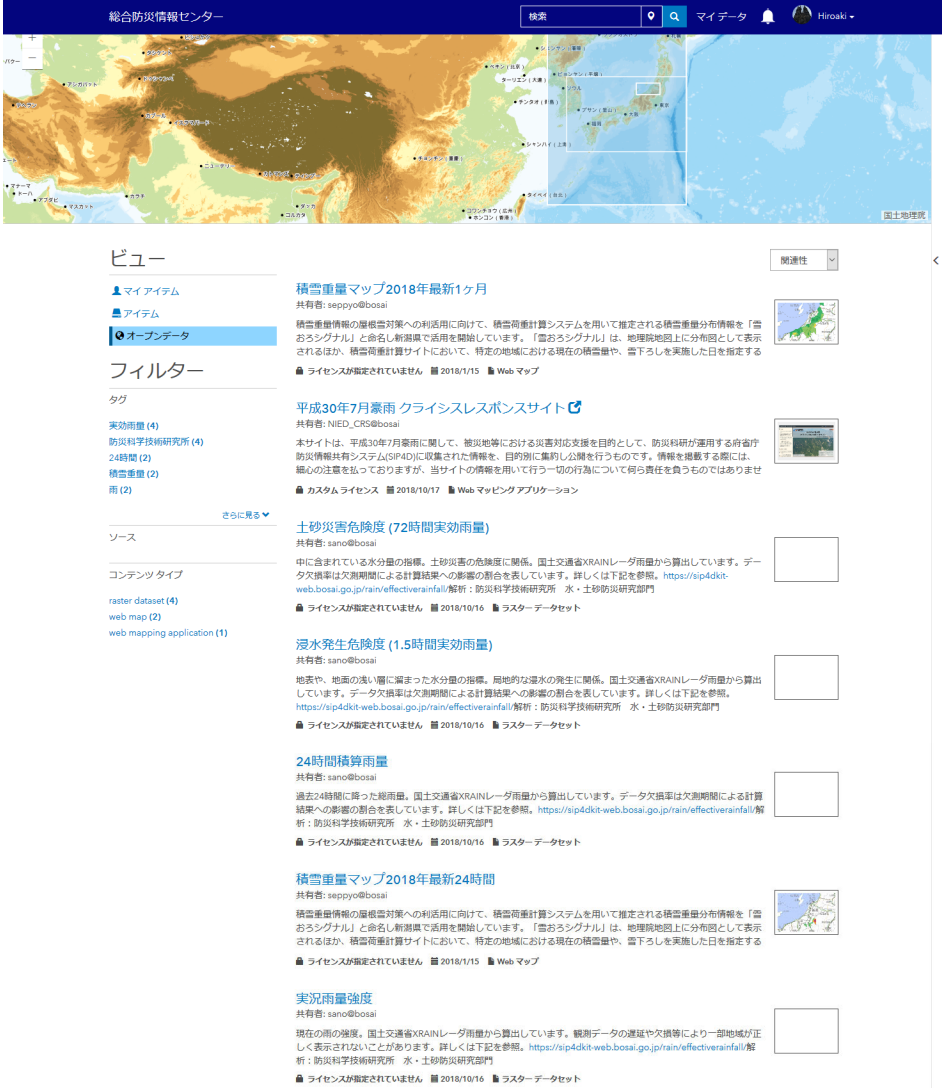
防災科学技術研究所では、これまで地震、津波、火山、風水害、土砂災害、雪氷災害に関する様々な研究を行い、数多くの研究成果を生み出してきました。そして、生み出された研究成果は社会に還元され、災害の抑止や軽減に効果を発揮してきました。

しかし、自然の脅威は一向になくならず、近年も日本は数多くの災害に見舞われています。こうした災害に立ち向かうためには、災害や防災に関する研究成果を統合していくこと、すなわち「情報」の統合が重要であると考えます。

この取り組みでは、防災科研が研究開発によって生み出した成果を「情報」として捉え、「情報」を1つのプラットフォーム（地理空間情報基盤）に統合し、二次利用が容易なカタチで発信することを目指しています。

スマートフォンが普及している理由として、1つの端末で電話、メール、カメラ、インターネット、音楽鑑賞、文書作成等の様々な機能を利用することができることが挙げられます。これと同様に、災害種別が異なっても、「情報」が1つのプラットフォームで統合発信されることで、「情報」に合わせたプラットフォーム選択が不要となり、「情報」を容易に取り扱うことが可能になります。しかし実際のところ、災害種別が異なるとデータの形式が違うため、「情報」の統合や共通形式での発信は難しいのが現状です。

この取り組みを通じて、個々の「情報」に合わせて人々が柔軟に対応していくのではなく、「情報」の発信を基盤から共通化することで、個人の技術（スキル）にとらわれず、誰もが「情報」を容易に取り扱える仕組みの実現を目指していきます。



The screenshot shows the website of the Disaster Research Center (総合防災情報センター). At the top, there is a search bar and a user profile for Hiroaki. Below the search bar is a map of Japan with a red location marker. The main content area is titled 'ビュー' (View) and contains a list of data products. The first product is '積雪重量マップ2018年最新1ヶ月' (Snow weight map 2018 latest 1 month), followed by '平成30年7月豪雨 クライシスレスポンスサイト' (2018 heavy rain crisis response site), '土砂災害危険度 (72時間実効雨量)' (Landslide hazard degree), '浸水発生危険度 (1.5時間実効雨量)' (Flood hazard degree), '24時間積算雨量' (24-hour accumulated rainfall), and '積雪重量マップ2018年最新24時間' (Snow weight map 2018 latest 24 hours). Each product has a brief description and a 'Web Map' button. The second product also includes a 'Raster dataset' button. The last product, '実況雨量強度' (Real-time rainfall intensity), includes a 'Raster dataset' button.